

■雪舟等楊 禅僧，画家。日本中世における水墨画の大成者。画家として個人名が出る先駆けとなった。

せつしゅうとうよう
・ ・ ・ ・ ・ 1420＝ 備中(岡山県総社市)に生まれる。

義教鑑引將軍1428＝ 8歳：
播磨国一揆・1429＝ 9歳：

明貿易回復・1432＝12歳：この頃， 上洛して相国寺に入り，春林周藤に仕え等楊の諱をもらう。

相国寺で修業，僧位は知客であった。

修行の合間に，幼い頃から得意で懂れていた絵画を学び，腕を磨いたと思われる。

永享の乱始・1438＝18歳：

嘉吉の乱・ ・ 1441＝21歳：

成氏鎌倉公方1447＝27歳：春林周藤が鹿苑院の住持になったのに従い，鹿苑院に入る。

中国に渡るべく，対明勘合貿易を主宰するほどの周防の大内氏をたよろうとしていたところに，

享徳の乱始・1454＝34歳：この頃， おそらく隠居することになった大内教弘から招聘されて，山口に下向。

・ ・ ・ ・ ・ 1456＝36歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1463＝43歳：春林周藤が死去。山口の雲谷庵に住し，すでに画僧として高名であり，
・ ・ ・ ・ ・ 1464＝44歳：この年，管領細川勝元の使者恵鳳が大内教弘のもとに下向してきた際，最初に会っている。
・ ・ ・ ・ ・ 1465＝45歳：この頃，雪舟と号する。

大内氏の明貿易の円滑化の役割も担ったらしく，
応仁の乱始・1467＝47歳：桂庵玄樹らとともに， 遣明船で入明。天童山景德寺で禅班第一座に任ぜられ，北上して北京にいたる。北京滞在中，礼部院中堂に壁画(竜図)を描き，また，「四季山水図」を描く。途上，各地に立ち寄り，大陸の自然や風俗を実地に観察，スケッチし，宋・元・明の古典を模写するなど，決定的な影響を得て，
・ ・ ・ ・ ・ 1469＝49歳： 帰国。以後しばらく，北部九州にいたらしいが，

・ ・ ・ ・ ・ 1472＝52歳：「育王山・金山寺図」を描く。

加賀一揆始・1474＝54歳：*弟子の雲峰等悦に高彦敬(高克恭)様「山水図巻」を与える。

・ ・ ・ ・ ・ 1476＝56歳：英彦山の亀石坊で作庭。豊後の天開図画楼に入る。この頃「鎮田淹図」。
この頃，桂庵玄樹も北部九州にいたことから，幕府との間の紛争のため，ともに息を潜めていたらしい。

・ ・ ・ ・ ・ 1478＝58歳：
山科本願寺・1479＝59歳：石見で「益田兼堯像」を描く。おそらく，幕府と大内政広の間で和平交渉が成立したことから，

・ ・ ・ ・ ・ 1480＝60歳：この頃までに， 山口へ戻り，
兼良+一休没 1481＝61歳：おそらく，大内氏から美濃の動向をさぐるべく派遣され，万里集九に会い，「金山寺図」や澁墨風の山水図を描いたのち，加賀，能登へ旅するなどの機会を利用して，自然風物への見方を深めて行く。

狩野正信絵師1483＝63歳：「花鳥図屏風」，
銀閣寺造営始1484＝64歳：「陶弘護像」。大内教弘によって再興された雲谷庵に入り，ここに再び天開図画楼を営む。
山城国一揆・1485＝65歳：
太田道灌暗殺1486＝66歳：*おそらく故大内教弘に従三位が追贈されことを祝って，それまでの研鑽を集約し独自の画境を展開する長大な画巻「山水長巻」を描き，現在では大部分が散逸している大作「観音変相図」，さらに，政弘の館のための襖絵と，三つの記念碑的な作品がつくられた特別な年になった。

加賀一揆支配1488＝68歳：「黄山谷像」に万里集九が賛。以後，世事に拘泥しない自由と，画三昧の生活で，自在な画法を深め，
足利義政没・1490＝70歳：等観秋月に自画像を与える。「花鳥図屏風」，

大内義興入京1491＝71歳：「猿猴・鷹図屏風」，
・ ・ ・ ・ ・ 1492＝72歳：
明応の政変・1493＝73歳：この年，將軍足利義材が管領細川政元によって廃され，越中に逃亡，新將軍足利義澄になる。
 日本的な水墨山水を確立した点では，「秋冬山水図」(国宝)もまた，記念碑的大作であり，

早雲小田原城1495＝75歳：弟子宗淵に与えた「破墨山水図」や
・ ・ ・ ・ ・ 1496＝76歳：*「慧可断臂図」等は晩年の傑作といえる。
晩年には破墨，澁墨などの草体の画風も多く記録され，現実的な山水構成とともに，真行草の筆墨法についても，宋元画をよく祖述した独特の日本の典型に達したものと見られる。

・ ・ ・ ・ ・ 1498＝78歳：「杜甫騎乗図」，
・ ・ ・ ・ ・ 1500＝80歳：「渡唐天神図」。逃亡していた元將軍足利義材が大内義興を頼って山口に下向，政元・義澄と対抗すべく，
・ ・ ・ ・ ・ 1501＝81歳：「四季山水図屏風」を描く。日本海側の守護への政治工作を企図するのに従い，*高齢にもかかわらず，丹後へおもむき「天橋立図」を描くなど驚くべき生命力を発揮したが，以後，行方知れずとなり，
・ ・ ・ ・ ・ 1502＝82歳： その帰路，没したらしい。

1506年(86歳)説もある

新潮日本美術文庫，藤原東演「禅の名僧列伝」，岡田喜秋「雪舟の旅路」，松岡心平「中世を創った人々」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，伊藤幸司編「大内氏の世界をさぐる」，